

ある汽車

いま動きはじめたのは鉄板を積んだ汽車
三町の道程を 彼は行き来する
水の上にはうつすらとしたもやがかかつてゐる
ここに在るものは 鉄板と雑草と
彼は一日この道を行き来する
時々 叫び声をあげて
疲れたやうな さうでないやうな
組織の中に組み入れられて
安心したつとめを持って 老朽を待つてゐる
彼は 自らの老朽に気づかないで
彼は老朽を待つてゐる
水はしづかに流れてゐる
水は日毎に新しい